

Kids Wave きつずうえいぶ

第31号
2023年7月

社会福祉法人

大村子供の家

大村子供の家の原点



大村子供の家は戦争引揚孤児の保護を主な目的とし、1946年9月に創設されました。当時は恩賜財団同胞援護会という全国組織が戦後引揚者や戦災者に対する支援を行っており、日本海軍施設の一部を利用し、大村子供の家の前身となる長崎支部がここ大村・竹松に設置されました。博多港に並び、引揚者が多かった佐世保浦頭港(約140万人)には、大陸等から命辛々引き上げてきた戦災者であふれ、中には親を亡くし身寄りのない孤児たちも含まれました。佐世保引揚援護局(現在ハウステンボスがある場所)から、親族のいる引揚者は最寄りの南風崎駅から全国津々浦々帰っていましたが、帰る先のない孤児たちの一部は竹松駅に移動し、大村子供の家で保護されました。

過去の資料を辿ると、大村子供の家は「一時保護施設」のような役割を果たしていたようです。全国に親族や引き取り手が見つかり次第、子ども達を引き渡していたことが記録されています。戦後の混乱期、孤児の数も多い中、地道に親族里親探しをしており、親族が見つからない子どもは養育を続けていました。大村子供の家の原点は家庭養育優先であり、今もその考えは在宅支援活動として受け継がれています。



創設当時の児童台帳

青大将がやってくる(ヘビ嫌いの方閲覧注意!) (II. D.)

暖かくなり、生き物も活発に動き出す季節。子供の家の園内でヘビの目撃情報が増えています。殆どのヘビは「青大将」と言われる無毒のヘビですが、刺激すると噛まれることがありますのでご注意ください。そのルックスや質感から忌み嫌われる青大将ですが、実は害獣であるネズミ等を食べてくれるため、家の守り神として昔からありがたい存在として扱われていたそうです。また、十二支の一つである巳(ヘビ)は、「実(巳)入りが良くなる」つまりお金が貯まるという縁起物もあり、皮がお財布に使われたり、脱皮した皮を財布に入れておくとお金持ちになるという言い伝えがあります。



青大将を含むヘビ類は、1ヶ月捕食しなくとも生きていける非常に生命力の強い生き物で、何度も脱皮する姿が、成長し続けるもの、再生の象徴として、これまた縁起が良いとされてきました。夢の中でヘビが出てくると、幸運がもたらされるとも言われています。

皆様、青大将の見方が少しあは変わったでしょうか??

大村子供の家にお金や幸運をもたらしてくれる守り神ですので、今度見つけた時は、捕まえたりせずにそっと見守ってあげてください(笑)。

ヒューマンストーリー

~海を駆ける~ ボートレーサー 岡本 大

おかもと ふとし



蒲鉾の仲卸業を営む厳格な父と優しい母の下、4人兄弟の末っ子(双子)として生まれた。両親は自分が5歳の時に離婚。その後は兄、姉、自分が母親に引き取られ、市営住宅で生活する。小学1年生の時、下校しても家に誰もいないのが寂しく、母に「仕事を辞めてよ」とお願いしたことを覚えている。母はそれに応え、1か月ほど仕事を休んでくれた。当時は学童保育など殆どなく、お金もなく大変だったと思う。母一人仕事に出ていたため、家事洗濯は自分たちも手伝った。今でいうヤングケアラーだったのかもしれないが、それが当たり前と思っていたし、一日中休みなく働いている母を見ると自然とそうになった。小学校2年生でソフトボールを始めたが、お金がなかったため練習着はボロボロのものを使い、道具を買ってもらうに1年待つこともあった。その分買ってもらった時の喜びはひとしおだった。兄や姉がキャッチボールの相手や、保育園の迎えに来てくれた。

小学4年生の夏、自分だけ父の家に引っ越すことになった。双子の兄弟が父と一緒に生活しており、そこに一人加わる形での生活だった。父子家庭で、父は毎朝5時くらいから長崎市まで蒲鉾の買い付けに出かけるため、自分で朝起きて、卵かけご飯を食べて、洗濯物を干して学校に登校していた。二層式の洗濯機だったため、冬場洗濯物の出し入れが冷たく、兄弟でジャンケンしてどちらがするか決めることがあった。父の仕事の手伝いで、各商店に蒲鉾の納品や集金にうかがうこともしばしばあった。親から「勉強しないさい」とも言われなかつたし、勉強するような環境・時間は無く、家事や父の仕事の手伝いをしていた。ただ、それが嫌だと、他の家庭が羨ましいとか思ったことは一度もない。

ボートレーサーを目指すきっかけとなったのは、子どもの頃父とよくボート場に遊びに行ったことだ。ボート場には広いキッズルームがあり、週末によく連れて行ってもらっていた。ボート場内の飲食店にも蒲鉾を卸していたため馴染みがあった。目の前で見る生のレースはとにかくかっこよかった。ボートレーサーは性別学歴関係なく、夢のある仕事だと父からよく聞かされていた。その影響か、高校卒業後ボートレーサー訓練校を受験したが、2次試験で落選。その後一旦は海上自衛隊に就職するも、ボートレーサーへの未練があり、再受験して合格した。喜びもつかの間、1年間の訓練校生活は過酷で、同期生が途中で次々と辞めていった。応募者1,600人程度で訓練校を卒業できたのは30名程度だったと思う。それから20年、現役ボートレーサーとして働いている。30歳前半で妻と出会い、2人の子どもにも恵まれた。妻は自分と違うタイプの人間だが、お互いに無いものを持っており、違う見方をして教えてくれる。自分にプラスになる助言をしてくれる優しい妻である。

大村子供の家との出会いは自分が選手会の地区理事になり、市内の児童養護施設への寄付活動に携わった時である。当時の施設主任からお話をうかがい、心動かされた。自分の境遇と重なるところがあったのかもしれない。両親2人いるのが当たり前ではない。いろんな世界があり、いろんな生き方があると子ども達に伝えたいし、何かの手助けになればいいと思い、支援を続けている。

自分が恵まれていたと感じることは、人の出会い。学校の先生や友達、そして家族に恵まれて今があると思う。

レースは負ければ悔しく、勝てばうれしいもの。実のところ悔しい気持ちが殆どである。いい時もあれば、悪い時もあり、厳しい世界でもあるが夢がある。子ども達に手助けができるよう、これからも夢に向かって海を駆け続けたい。



行事予定



7月・・b&g 佐賀旅行(21日)、(子家)竹松ゆかた祭り(22日)、(子家)県内施設対抗球技大会(26日)、(子家)国際交流事業ベトナム旅行(7/29 ~ 8/2)

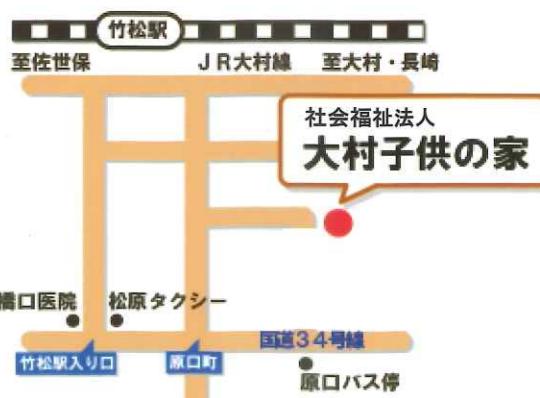
8月・・(子家)大村夏越祭(2,3日)、b&g 黒木キャンプ(4 ~ 5日)、(子家)夏キャンプ(23 ~ 24日)、(子家)オリックス旅行(京都)(8/2 ~ 8/4)

9月・・(子家)イングリッシュキャンプ(東京)(8/7 ~ 8/9)、(子家)韓国福祉使節団来訪(14日)、(子家)大村剣西クラブ60周年記念(16日)

編集後記

煩惱とは「人が生きるときに感じる苦しみになるもの」だそうです。具体的には欲望や欲求、妄念、妄執を表し、それを取り除く手段として昔から宗教(信仰)や修行が用いられてきました。一方、現代は携帯電話やインターネットの普及により、むしろ煩惱を促進する社会となっています。悪質商法や多額の献金等、人の煩惱により宗教の一部も利用されつつあります。宗教2世の苦惱がニュースにもなりましたが、自らの「煩惱」を捨て、子をつけて「子煩惱」を目指すべきとも思う今日この頃です。KM

社会福祉法人 大村子供の家 〒856-0811 長崎県大村市原口町
591番地2 TEL 0957-55-8319 FAX 0957-55-4661



社会福祉法人
大村子供の家

6月3日(土)・4日(日)、平戸方面宿泊体験旅行に行ってきました。初日は巨大カマキリが出迎える「たびら昆虫自然園」を訪問。日本の原風景であった畑、小川、池、雑木林、草はらなどの環境が再現されており、そこに集まる昆虫などを自然のままに観察することができました。午後には、松浦氏の居城であった平戸城に登り、360度の絶景パノラマを楽しみました。また、日本で初めて西洋貿易が行われた平戸で、異文化と日本文化が混ざり合った独特の雰囲気を楽しむことができました。

宿泊先では、美味しい夕食をいただき、温泉で疲れを癒しました。部屋で大暴れして枕投げをするのかと思いきや、翌朝5時起きのため、早々に就寝していました。前日まで朝5時に起きられるか不安だった子ども達も、当日3時半頃からゴソゴソと動き始め、定置網漁体験を楽しみにしていた様子。6時から2隻の漁船に乗り込み、一生懸命ハマチやイカ、トビウオ等を大きなタモで船上にすくい上げていました。漁のあとはお魚尽くしの朝食をおいしくいただきました。漁労長から「金儲けで体験漁をやっているのではなく、後継者をつくるためにやっている」との言葉が心に残りました。



漁師さんたちは、我々のバスが見えなくなるまで手を振って見送ってくれ、私たちも最後まで手を振り、感謝の気持ちを伝えました。その後、生月町博物館で捕鯨の歴史を学び、生月島最北端の大バエ灯台で絶景スポットを堪能しました。帰りは行きと大違い、皆疲労困憊で極めて静かな車内でした。多くの子ども達にとって初めての経験ばかりで、思い出となりました。



認定こども園 キッズランド ～楽しい親子活動～

春から初夏にかけて、園内外で様々な活動を行ってきました！今回は親子活動についてご報告します。

4/22(土) 親子遠足



6/10(土) 保育参観(0・1・2歳児)

保護者の方に園の様子を見ていたり、一緒にふれあい遊びや製作活動、最後にはプレゼントを渡し、楽しい参観日となりました☆



2歳児クラスは、カエルの製作、砂場遊びを親子で楽しみました☆でき上がったカエルの製作とパシャリ！



児童養護施設 大村子供の家 ～戻りつつある日常～

今年度が始まりあっという間に3ヶ月が過ぎました。コロナが5類感染症に移行されたことで、今まで中止になっていた行事に徐々に参加することができ充実した日々を送っています。

4月29日に大村市園田市長にご来訪いただきました。子ども達からあがるたくさんの質問に笑顔でわかりやすく、笑いも交えつつ答えてくださいました。最後には全員で記念撮影を行い、終始和やかなひと時でした。園田市長、また来年もお待ちしております☺

5月1日には、健康表彰式＆レクリエーション大会を行いました。

学校無欠席・病院受診なしの子供を表彰する健康表彰式では、1番長くて9年間も無欠席の子がいました。レクリエーション大会ですが、今年度は子供達も職員もくじ引きを行い、5つのチームにわかれ一致団結しまさに真剣そのものでした。普段あまり関わりの無い他ホーム児童とも交流でき、楽しいひと時となりました。5月末からは高総体、中体連、運動会、授業参観など学校行事がたくさんありました。

4月3日 性教育出前講座

「性について学ぼう」と小学生、中学生、高校生とそれぞれに勉強しました。



4月17日 お仕事探検隊

出島ロータリークラブ主催で、8つのお仕事の説明＋体験で楽しく学びました。



6月18日 田植え

今年も泥んこになってがんばって植えました。秋の収穫が楽しみです♪



4月17日 長崎ヴェルカ試合観戦招待

5月3日 ソフトバンク野球観戦招待

5月22日 ジブリコンサート招待

関係各社の皆様 楽しい時間をありがとうございます(^▽^)

これから夏に向けてキャンプやお祭りなどが目白押しです。みんなで楽しみたいと思います！

小規模保育園 キッズホーム ～長崎空港へGO!～

暖かくなり、生き物も活発に動き出す季節、キッズホームの子ども達も元気いっぱい活動しています！

6月の晴れた日に長崎空港へ1歳児、2歳児それぞれでおでかけしてきました！子ども達もニコニコ顔。屋上の展望デッキに上がり、大きな飛行機を間近で見ることが出来て、大興奮の子ども達でした。2歳児のお出かけの際はあいにくの小雨でしたが、なんと、スカイマークエアラインズのピカチュウジェットを偶然にも見ることができました。ラッキー！

また晴れた日に飛行機や新幹線など、乗り物を見に行きたいと思います。



NAGASAKI AIRPORT

